

高梁川歴史探求コンテンツ 「ぶら宇喜多」へのアプローチVer.1



岡山県倉敷市 × Kurashiki GIS LABO × まちケア運営チーム

倉敷市の課題

高梁川流域圏下流域の歴史的背景を知り地域に関心を持つ人を増やす

高梁川を中心として形成された流域圏について、その歴史の変容については史実に基づき明らかにされていますが、地理的地域形成の歩みや可視化については、ほとんど具体的に見える化されていません。

治水・防災の観点から、まちづくりの方向性や災害リスクの軽減・回避対策を検討するうえでの前提条件として、まちの歴史的な形成過程を把握することは、極めて重要だと考えており、地域の人々で高梁川流域圏の形成過程を見る化・共有化するアイデアを期待しています。

課題の確認

真備地区の激甚災害の経験で実感した 地理空間情報活用技能の重要性

岡山県倉敷市真備地区の事例

○岡山県真備町でも、125年前(明治26年)の供養塔が源福寺に設置されていた。



○明治26年(1893年)に起きた水害で、真備町は200人以上が犠牲。

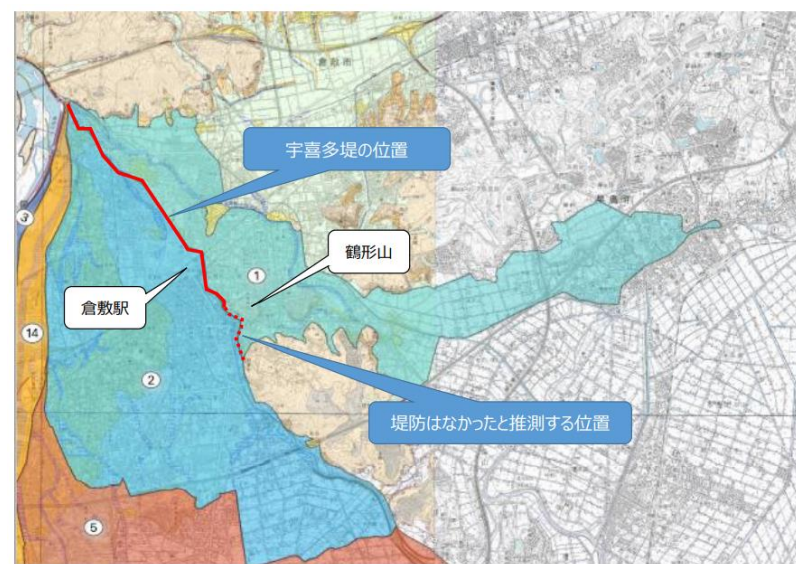
地理空間情報やGISでできること

- 地域の課題やその対応策などを容易に理解でき、意思決定の判断や合意形成の材料として活用できる
- 過去の地理情報は地域や地域コミュニティの成立過程の他、特に災害の歴史を読み解く手掛かりとなり、防災面においても重要

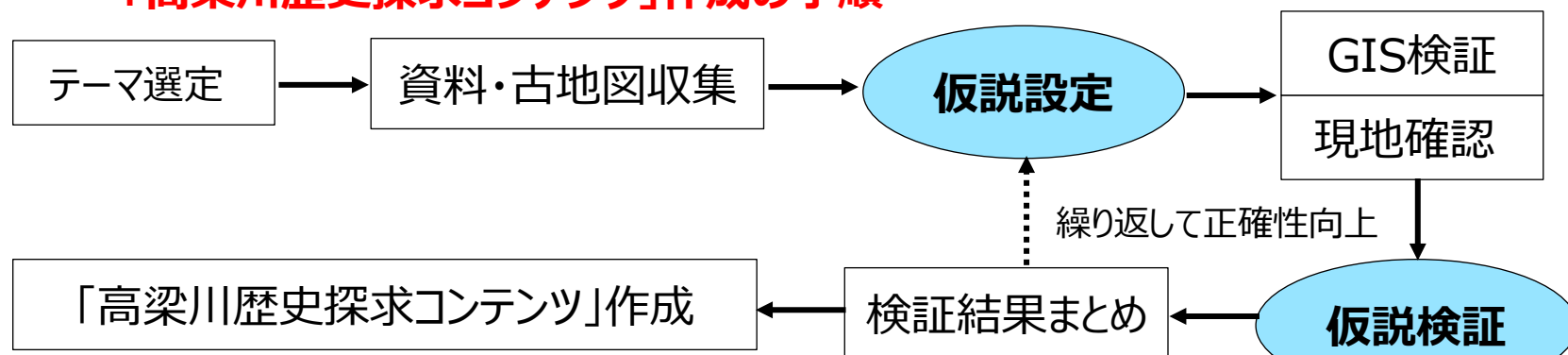
アイデアの内容

歴史資料と現在の地域をつなぐ教材づくりの手順を とりまとめ、地域の教材コンテンツ開発を支援

- 歴史的史実に基づいた地域の形成史のなかで治水・防災の観点から河川堤防の形成に着目して、「高梁川流域の16世紀後半の堤防形成」をテーマに、プロトタイプ教材を作成します。
- 古地図など過去の地図情報や文献資料から得られる位置情報を、現地踏査などにより得られた情報を地形図に重ね合わせることで歴史検証を行ったうえで、古い地図を電子化して地理情報システムで可視化する手順を整理してまとめます。
- 教材では、GISの基礎知識を解説するとともに、古地図の取り扱いについても触れます。



「高梁川歴史探求コンテンツ」作成の手順



市民科学の場「データ分析サロン」



アイデアの実現までの流れ

目標は
2023年度中のプロトタイプ教材開発

ヒト	モノ	カネ
地域の中学校・高校・大学の生徒・学生、地域の歴史や防災に関心ある住民、住民団体	拠点・GISツール：倉敷市データ分析サロン※ データ： 国土地理院基礎データ、オープンデータ、 資料調査、現地探査による収集	倉敷市市民企画 提案事業等

※倉敷市では、実際にデータに触れて分析体験ができる市民科学の場として、分析ツールや教材等をそろえた「データ分析サロン（一般社団法人データクレイドル運営）」をJR倉敷駅前
に常設し、自治体や地域企業等からの具体的なデータ活用相談への対応や技術支援を行っています。
地域の課題の理解、対応策の検討、意思決定や合意形成の場としても活用します。